

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 174	提案機関名 さがみ農協
要望問題名 苗物用土の適正な配合割合のマニュアル化	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 JAさがみ管内には、パンジーやビオラなど苗物の大規模生産者が十名以上おり、さらに増加することが予想される。鉢物の培養土は赤土を中心に腐葉土や堆肥、ピートモス、など様々な資材を配合して利用している。配合にあたっては、物理性および価格の面からそれぞれの生産者が工夫しているが、指標となるべきデータが少ないため苦労しているのが現状である。 企業的な大規模生産においては、培養土の物理性の最適化は生産安定の第一歩であるが、近年原発事故の影響による腐葉土の問題や牛糞堆肥のクロピラリドなど、これまで一般的に利用されてきた配合資材に様々な問題が発生している。 そこで物理性の改善を目指し、苗物用土の適正な配合割合のマニュアル化に向けて、試験研究をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部土壌環境研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 有機資源の高付加価値化技術の開発 機能性堆肥の有効活用技術の検討 低塩類堆肥の有効活用技術の開発			
対応の内容等 生産環境部では、苗物用土の各種資材の配合割合と物理性の評価について、普及指導部と協力して基礎的なデータを収集して検討を始めています。配合資材の堆肥やピートモス等に代わる新たな資材(低塩類堆肥)の検討も含めて、生産技術部とも協力し、適切な用土配合割合に関する技術のマニュアル化に向けての試験研究を進めていきます。			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			